

**教育・子育て** （3件）

●以前まで3人目以降の出産祝いで50万円の補助が出ていたが、今年は15万円に減額するとのこと。伊達市は産科がなく市外での出産になるため必要額は50万円を超える。今回の出産で仕事も辞めなければならない、収入もない中で減額されれば産んですぐ自分の子どもの面倒も見られず働かなくてはならない。減額するにしてもお祝い金の金額を再度検討してほしい。

出産祝金支給事業ですが、第3子以降の出産を祝福し次世代を担う子どもの健やかな成長を願い祝金として給付しております。国の各種子育て支援金の拡充が図られている現状ですので、祝金制度も含め18歳までの子育て支援の在り方を検討してまいりました。

市では、生活困窮者の経済支援など福祉行政全般の対策が求められており、出産祝金を減額したお金で、就学援助事業の拡充をさせていただきました。これは、経済的な理由により高校進学を悩む家庭に、高校就学準備金として援助するものです。

（担当 ネウボラ推進課）

●第3子、第4子となる双子を出産した。オムツ、ミルクの消費が2倍なので家計が圧迫されている。多子世帯へのオムツまたはミルクの助成をしてほしい。

伊達市における経済的支援ですが、第3子以降の出産を祝福し次世代を担う子どもの健やかな成長を願い、出産祝金を給付しております。また、国においても出産子育て応援金など各種子育て支援金の拡充が図られており、令和6年10月分からは児童手当が改正され、第3子以降の児童ひとりあたり月額3万円の予定となっており、子育て世帯を支援する環境が整ってきていると考えます。

その他、伊達市独自の取り組みとして、妊娠期から切れ目なく相談や育児などに寄り添い支援する伊達市版ネウボラ事業や認定こども園整備、放課後児童クラブの運営などの子育てに関する施策を行っています。今後もこれら子育て施策の充実に努めてまいります。

（担当 ネウボラ推進課）

●図書館の貸出冊数について、福島市では10冊まで借りることができたが伊達市では5冊までしか借りることができない。同様に10冊まで借りられるようにしてほしい。また、5冊までしか借りられない理由を教えてほしい。

伊達市では伊達市立図書館管理運営規則に基づき、1人1回につき5冊まで貸し出しが可能となっております。こちらの趣旨としては、本市の図書館にある蔵書数が令和4年度末現在で184,843冊となっており、限られた蔵書を一人でも多くの市民にお読みいただくため5冊の制限を設けております。今後、利用者からの希望状況や、蔵書数の増加など見込みながら、貸出限度数の増について検討してまいります。

また、本市では、諸事情により図書館になかなか足を運べない方にもご利用いただけるように、令和2年度から電子図書館を導入しております。電子図書館は2冊までが限度冊数となっておりますので併せてご利用ください。

（担当 生涯学習課）